

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立開成小学校		
	C：やや不十分である D：不十分である		
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標の実現に向けて、職員が「心の教育」に積極的に取り組み、児童の豊かな人間性の涵養に努め、児童の意識調査から目標以上の成果が得られたことがうかがえた。R 6年度は取り組みの発展的継続を図る。 ・生徒指導と学級経営に関する児童の意識調査は良好な結果が得られたが、実践が伴わない「しているつもり」の児童がいると感じる。生徒指導の徹底のために具体的な行動目標を全校で共有するなどの取り組みの改善を図る。 ・特別支援学級在籍児童が自分のペースに合わせて学習したり、通常学級において学力差に応じて個別に学習課題を提示したりと、学習者用端末を積極的に活用した学習指導に取り組み始めている。 ・よりよい生活習慣の定着に向け、運動や食、衛生に関する指導を詳細に行い、運動習慣の定着が図られた。午後10時までの就寝や朝食の喫食などの生活習慣に課題を抱える児童がいるため家庭との連携を充実させ、児童の健康増進に努める。		
2 学校教育目標	豊かな人間性をそなえ 自ら学ぶたくましい子どもの育成 ～やさしく かしこく たくましく～		
3 本年度の重点目標	①生徒指導の徹底と学級経営の充実 ②特別支援教育の充実と学力向上の推進 ③心身の健康維持と自己有用感の醸成		

重点取組内容・成果指標			中間評価	5 最終評価							
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価	最終評価	学校関係者評価	主な担当者				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○校内研究の取り組みを柱とした主体的に学び、考えを深める授業づくり	○単元テスト等で、「思考・判断・表現」での80%以上をめざす。	・問題解決型の授業スタイルを共通理解し、「自分の考えをもつ」場面、「考えを伝え合う」場면을意識的に多く設定する。	B	・単元テスト等の「思考・判断・表現」は83.1%で達成している。授業スタイルも共通理解できている。職員間でも授業を見合ったり交換授業を行ったりすることで、自分自身の「考える力」や「伝える力」を高めようとする意欲が育ち、児童の「思考・判断・表現」の向上につながっている。	A	・単元テスト等の「思考・判断・表現」は80%で目標に届いているが今後も引き続き問題解決型の授業スタイルを共通理解し「自分の考えをもつ」「場面」「考えを伝え合う」場면을意識的に多く設定する取り組みを継続していく。	A	・学年によってばらつきがあるが発達段階にあわせて取り組みがなされている。児童の主体性を重視した授業により考えの力が高まっている。話し合い活動や発表の場が増え、児童は意見を述べ、相手に受け入れようとする意欲が育ち、自己肯定感が高まっている。基本的には基本でやりこむ授業は大切ですが、問題解決型で目標を設定することは難しい。わからないものをそのままにしていて、指導を充実させてほしい。	学び部 研究主任 学力向上対策コーディネーター	
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケート「心の教育」に関する項目で、肯定的に答える児童85%以上をめざす。	・人権教室・人権学習会(平和・人権・道徳等)で、肯定的に答える児童85%以上をめざす。 ・参観日やフリースクールにおいて、ふれあい道徳の授業や人権学習等を公開する。(地域連携)	A	・職員すべてが人権学習の実践に取り組むとともに委員会を中心にほかほかの会の指導力の向上を図り児童の豊かな心の醸成を図る。87.3%の児童が肯定的回答を行っているが言葉遣いに気を配る必要がある。今後の指導の重点とする。ほとんどの学校で道徳等の授業実践を公開している。	A	・道徳の授業を公開したり若手職員が道徳の研究授業を実施したりと職員間の連携を図り児童の豊かな心の醸成に努めた。人権教育が計画的に実施され、効果的であった。全校で他者の良さに目を向ける活動に取り組み、児童の86%が積極的に取り組んでいる。言葉遣いについては継続的な取り組みが必要。	A	・全体的に良好で児童と教職員の関係も良好。ICTの活用や授業研究で人権教育が進んでいる。道徳教育や人権教育の年間計画に位置づけられ、子どもたちの豊かな心が醸成されている。「ほかほかの木」の活動が素晴らしい。大きな木を植えたいという声が多く、子どもたちが心を育てたいことは大事。言葉遣いは大人になっても大切な要素。あいさつや言葉遣いの指導を継続してほしい。家庭でも学校でも取り組んでほしい。	こころ部 道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「開成小いじめ0宣言を守って生活している」に肯定的回答の児童80%以上、「いじめへの組織的対応を適切に行っている」に肯定的回答の教師90%以上をめざす。	・「いじめのわたり」や「ほっとタイム」の活用。「気にならず」の情報共有によるいじめの未然防止や早期対応・再発防止に努める。 ・管理職を交えた複数の職員による事実確認や組織的対応を図る。	A	・職員・児童ともいじめの根絶・早期発見、早期対応に向けて、取り組んでいる(肯定的回答職員95.4%児童95.5%)。今後も引き続き取り組んでいく。全児童が安心して学校生活を営むことができるように担任から管理職へ報告相談体制を整備し、ほとんどの事項について組織的に対応できているが、一部担任とのみ対応となっているケースがあり今後改善する。	A	・「いじめのない学校にしよう」の目標に向けて取り組み、年間を通して9割以上の児童がいじめをなくす意識をもって学校生活を送った。全児童を対象とした毎月のアンケート調査と個別別面談により全児童を漏れなくいじめ被害から守り早期に対応し、いじめの解消に努めた。管理職の報告と組織的な対応が確実となり早期の解決につながっている。(職員の肯定的回答率が高い)	A	・いじめの判断は難しいので、引き続き児童との関係性を高めていきたい。定期的な個別面談等でも早期に対応し深刻化を防ぐための組織的対応に努力を感じる。アンケートが計画的に行われ、早期発見・解決につながるのを継続してほしい。毎月のアンケートや面談により見える化された組織的に対応されている。個人面談は大切。学期ごとの面談が話しやすい場であってほしい。	こころ部 教育相談担当 生徒指導主事 主幹教諭
●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。		●「先生はあなたのよいところを認めてくれてありがとう」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・「ほかほかの木」と帰りの会でいいところを見つけ、直接褒める機会を設ける。 ・キャリアパスポートの活用と見通しをもった活動により自己の成長を振り返らせる。	B	・100%の職員が児童の良さや頑張りをほめるように意識し児童の頑張りが教師からの称賛を受けている。今後も適量の児童と日々の活動を通して児童自身が自信と希望をもてるようとする。将来の夢をもっている児童が87%おり目標は超えているもののキャリアパスポートの活用には課題がある。これから効果的な活用を図る。	B	・全職員が「ほめるからはじめる」を意識し、87%の児童が先生が「ほめる」と感じている。ほめるだけでなく、児童の個性や能力を生かすような取り組みを行うことで、児童の自信や意欲がさらに高まることを目指す。また、児童の個性や能力を生かすような取り組みを行うことで、児童の自信や意欲がさらに高まることを目指す。	A	・「ほかほかの木」の取り組みは大変良い。継続してほしい。キャリアパスポートの活用により児童の考え方や行動の変化が見えてきた。「ほめるからはじめる」が学校行事だけでなく家庭でも意識していただき、我が身を振り返ってもらえる大人になりたい。	こころ部 キャリア教育担当 主幹教諭	
●健康・体づくり	◎志をもち、主体的な考えをもって、前向きに学校生活を送るための支援の充実	◎Q-Uテストの学校生活満足群50%以上(全国平均約43%) ◎保護者意識調査「夢、希望をもつ教育の推進」への肯定的回答80%以上	・定期的個人面談や社会性を高めるトレーニング等に取り組む。発達支持的生徒指導の充実を図る。	B	・Q-Uテストの学校生活満足度は48%。目標には届かなかったものの、全国の平均値よりも高い値であり各学年で上半期の効果を継続する。結果として職員研修を行い課題の解決に向けた取り組みを行う。将来の夢をもつており回答した児童は87%。	A	・12月実施のQ-Uテストの学校生活満足度は57%で目標値並びに全国の平均を上回る事ができた。各学年で上半期の効果的な取り組みを継続し、学校経営上の課題の解決を図った結果である。90%の児童が将来の夢をもっており年間を通じたキャリア教育の実践が効果的だと感じる。	A	・全国平均を上回り学校の取り組みが評価出来る。引き続き児童の可能性を高めてほしい。Q-Uテストの結果が前年度および前期と比べて大きく伸びたことを受け、様々な行事で笑顔で頑張っている児童の姿が見られる。全校の学校生活満足度が高い。今後、個々に向け適切な支援を進めたい。	こころ部 キャリア教育担当 主幹教諭	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童60%以上 ②22時までに寝る児童が75%以上 ③「健康に良い食事をしてる」児童80%以上	①体育科の体づくりに運動等の中で多様な遊びやスポーツチャレンジを紹介し、教師も子どもと一緒に遊ぶことを推奨し、運動習慣の向上を目指す。 ②1年に2回生活チェック週間を設けて、自分でチェックし、保護者、担任も確認することで、生活を振り返り改善をめざす。児童の健康に関する情報を積極的に発信する。 ③給食時間の電子黒板の活用や献立を通じた食に関する指導を行う。	B	①児童アンケートの「1日に1時間程度運動をしていますか」は78.9%の児童が達成できた。主体的に体を動かす機会を多く設定する。 ②児童アンケートの「夜22時に寝るよ」という生活リズムを整えていますか」は78.9%達成できた。保健タイムを活用したり「グッドモーニング60分」の取り組みをしながら、学校の生活リズムを作るきっかけを作ることができた。今後も取り組みを継続する。 ③児童アンケートの「健康に良い食事をしてますか」は91.1%達成できた。給食委員会による放課後食に対する意識付けを行った。今後も取り組みを継続する。	A	①児童アンケート(左記)に肯定的に回答する児童が81.9%。年間を通してスポーツ委員会を中心として月に一度のスポーツフェスタの取り組みもあり、教師も子ども毎日外で元気な遊び運動習慣の向上を図った。 ②児童アンケート(左記)76%達成。生活チェック週間をきっかけに生活のリズム作りにも動き出すことができた。今後も家庭への啓蒙を続ける。 ③児童アンケート(左記)で、目標数値を大きく上回り93%達成。1年を通して、給食の残量も減ってきた。給食時間の電子黒板活用もできた。	A	・家庭環境に左右される内容でもあるので、学校独自の取り組みを評価してほしい。十分な取り組みをしていると感じる。「モーニング60分」の取り組みは学校の生活のリズムを整える素晴らしい取り組み。電子黒板を活用した視覚的な教育指導により効果が期待できる。生活習慣や食習慣の定着は家庭で行うべきだが、教育現場においても児童に意識させることは大切。早寝早起朝ご飯は一日の始まりで健康の基盤。登校1時間前の起床の推進、呼びかけは素晴らしい。子どもたちには本当にパワーがある。身体だけでなく心の元氣もととても大切。	すこやか部 体育主任 養護教諭 栄養教諭 保健主事 食育担当
		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・週1回、職員各自が定時退勤日を設定する。行事等の教育課程を精選し、職員が事務処理を行う時間を確保する。	B	・時間外在校時間の削減について肯定的意見が72%であり十分。週1回の提示退勤日の設定をより明確にさせ、ライフワークバランスの向上に努める。	B	・個人で設定する週に1度の定時退勤ボードを作成し実行したこと、ウチノカラスの意見が聞き取り、時間外在校時間の削減について肯定的意見が90%以上あった。行事等の精選などにより今年度もより来年度の教育課程を見直し、事務処理時間を増加することができた。	B	・地域との意見交換が必要。フレックス制などの検討は出来ないが、子どもと先生の行事は時間がかかりすぎるので、児童の負担が軽減できるように。欠席連絡の電子処理や電話対応の時間削減などは教職員の負担軽減に有効。職員も休職を取得できる家庭サービスやリフレッシュをして業務を頑張りたい。熱心な先生ほど多い。先生も「親の立場」を大切にしてほしい。	教頭
●特別支援教育の充実		○ICT利活用、行事、会議の精選	○職員会議や研修等にかかる上限時間を80分とし、遵守する。 ○各部から1つ以上の改善案を提言する。	・会議資料のペーパーレス化、ischoolの活用を推進し、提案の効率化を図る。 ・行事の精選のため昨年度の反省を生かして各部で協議後、提案を行っている。「例年通り」を改善するため、早めに話し合いをし提案し全体で共通理解の上進めている。	B	・課業日に行う職員会議や研修は80分以上を原時間として行っている。ischoolの活用を徹底し連絡の短縮を目指していく。 ・行事の精選のため昨年度の反省を生かして各部で協議後、提案を行っている。「例年通り」を改善するため、早めに話し合いをし提案し全体で共通理解の上進めている。	A	・会議資料のペーパーレス化が定着し、80分以内で行うことができた。ischoolを活用した連絡・提案も進み、連絡の時間短縮につながった。 ・昨年度の反省を生かして、行事をよりよいものにするために改善を行った。各部でも話し合いを十分にいきなりよりい形での提案を行った。	A	・電子黒板やタブレットを使用しICT利活用に取り組みでいる。連絡等でICTを活用する保護者が増えたと職員の業務改善につながった。学校からの連絡がメールを通じて読めるのは助かる。	教務主任 情報化推進リーダー
●特別支援教育の充実	○子どもの個性や特性を大切に、きめ細やかで効果的な学習指導の充実	○意欲的に学習することができたかどうかを児童に4件法で自己評価させ、3.0を目指す。1単位時間や単元等で自己評価させることで、実態を確認する。	・主に国語科と算数科において意欲的に学習できているように、個々の児童の特性に合わせて支援する。特別支援学級支援員・生活指導員やICT等も活用する。	B	・自身の学習への取り組みを意欲的で肯定的に捉えている児童は85.8%と高評価であるが1単位時間や単元等での自己評価の実施率は77%とやや低い。授業のUD化やICT機器等の活用を行いつながる児童の実態把握に努め、把握した児童の実態や特性を職員で共有しながら支援に取り組む。	A	・自身の学習の取り組みを意欲的で肯定的に捉えている児童は80%と高評価である。また、1単位時間や単元等での自己評価の実施率はほぼ100%である。今後も継続して特別支援学級支援員・生活指導員やICT等も活用し、児童の実態把握に努め、把握した児童の実態や特性を職員で共有しながら支援に取り組む必要がある。	A	・児童の個別条件であるので評価しづらいが学校の取り組みは評価出来る。ICTを活用して児童一人一人に対して授業が行われる児童が意欲的に学んでいる。授業を観察した折、熱心な指導がなされていた。児童の状況に応じてきめ細やかに工夫された児童は集中して学習に取り組んでいた。	まなび部 主幹教諭 特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			中間評価	最終評価	学校関係者評価		主な担当者				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言		
○生徒指導の徹底と学級経営の充実	○凡事徹底による規律ある集団と豊かな人間関係を育む教育の推進	○「開成スタイル」を実行していると答える児童75%以上をめざす。	・「開成スタイル」を全職員が共通理解し、具体的な目標を設定し、徹底を図る。 ・学	A	・全職員の理解のもと、共通実践と発達段階に応じた取り組みを行い、「開成スタイル」を全校で徹底していき、児童の「考える力」や「伝える力」を高めようとする意欲が育ち、児童の「思考・判断・表現」の向上につながっている。	A	・95%の児童が開成スタイルを守って生活するように気をつけ、「開成スタイル」を全校で徹底していき、児童の「考える力」や「伝える力」を高めようとする意欲が育ち、児童の「思考・判断・表現」の向上につながっている。	A	・「あいさつ名人」の取り組みは成功している。昨年よりあいさつをする児童が増えた。取り組みを継続して習慣にしてほしい。行動目標の「見える化」が効果的。子どもたちが大好きなことをよくしてくれるしも元氣。誰にでもあいさつが出来ることには大人になっても財産となる。	こころ部 生徒指導主事 主幹教諭	
○地域連携教育の発展	○地域のひと・もの・ことを取り込んだ教育課程とふるさとのよさを実感する教育の推進	○学校評価アンケートで、「学校や地域のよさが分かる」と答える児童75%以上をめざす。	・学校通信、学校便り、メール配信、HP掲載により積極的情報発信を推進する。 ・地域の連携により学習指導要領に沿った教育活動を推進する。	A	・地域ボランティアの新規募集並びに適切な更新手続によりボランティアの方々と連絡が密になり活性化につながった。学校の学習や施設開放を通して83.6%の児童が、学校や地域の良さを感じ取っている。また、情報発信の頻度を高め、地域・家庭・学校のつながりをより深める。	A	・年2回の児童アンケートから80%を超える児童が地域の良さを実感していることがわかる。公民館主催で魅力的な活動が行われ、参加したい児童が増えている。今後も継続して特別支援学級支援員・生活指導員やICT等も活用し、児童の実態把握に努め、把握した児童の実態や特性を職員で共有しながら支援に取り組む必要がある。	A	・「最近の児童は忙しい。それでも地域行事に参加している児童がいることは素晴らしい。開成文化祭では地域の方と一緒に取り組み、発表している姿が素晴らしい。地域の方から先生がもらえるという声も聞く。近所子どもたちと出会う機会が少なく、地域の方と交流する機会が少なく、近所子どもたちと出会う機会が少なく、地域の方と		